

「勝った!」「伸びた!」を実感できる短距離走（リレー）のあり方
～2人走の実践を通して～

1 設定理由

体育学習で、技能の優劣に関係なく、子ども達が対等に意見を交換したり、作戦を立てたり、ゲームをしたりすることは意外と難しい。なぜなら、運動技能の高い子ども達が作戦を立てたり、チームに指示したりすることが多いからだ。しかし、運動技能の高い子どもが、各運動のポイントを理解し、アドバイスしているとも限らない。ただ、「運動ができる」からチームに受け入れられる傾向があるのではないだろうか。一方、運動技能の低い子ども達は、よい作戦を考えても、その考えが受け入れられなかったり、進んで作戦を考えず他人任せにしたりすることが多いように感じる。特に本学級のような少人数学級では、このような序列はあらゆる場面にあるが、その序列をあえて崩そうとチャレンジする姿はほとんど見られない。そこで、今までに築かれた序列に関係なく、「勝つ」「伸びる」ために、全員が対等な立場で学び合い活動をし、全員に、「勝つ喜び」「伸びる喜び」を味わわせ、ガッツポーズする姿を目指して、本研究では以下の2点に焦点を当て学習を構成した。

一点目は、誰にでも「勝つチャンス」「伸びるチャンス」がある教材を開発することである。二点目は、一人一人が「勝つ」ため、「伸びる」ために真剣に考え、学び合い活動が活発に行われるように場の工夫をすることである。学び合い活動がより具体的になり、活性化されることで、技能が向上し、「勝つ」「伸びる」ことにつながると考える。技能の優劣に関係なく、誰でも「勝った!」「伸びた!」を実感するチャンスのある教材「2人走」の有効性を明らかにするために本主題を設定した。

2 研究仮説

「2人走」において活発な学び合い活動が行われれば、走力に関係なくバトンパスの技能が向上し、「勝った」「伸びた」を実感することができるだろう。

3 研究内容

- (1) 誰もが「勝った」「伸びた」を実感することのできるリレーの教材開発
- (2) 2人走における学び合い活動の分析
- (3) 「勝った」「伸びた」に関する分析

4 結論

◎場の工夫をした2人走を行うことで、運動技能の優劣に関係なく的確な学び合い活動が効率よく行われ、「勝った」「伸びた」を実感することができた。

◎バトンパスに関する学び合い活動が充実したため、バトンパスの技能が向上し、「勝った」「伸びた」を実感することができた。